

一般社団法人 日本時計学会
平成26年度（2014年度）事業計画書
（自 平成26年1月1日～至 平成26年12月31日）

I. 事業計画

1. 学術講演会、研究会、見学会等の開催

(1) マイクロメカトロニクス学術講演会

マイクロメカトロニクス学術講演会を9月上旬、中央大学理工学部で開催する。
研究論文発表12件程度を予定する。

(2) 研究会

時計及び時計応用技術に係わる最先端のテーマを2件選定し、専門の講師を招いての研究会を、4月及び11月の2回、中央大学理工学部教室で開催する。

(3) 見学会

会員の研修のため、産業界、特に時計技術に関連する分野において顕著な業績を挙げている工場、研究機関等の見学会を6月に行う。

2. 時計及び時計応用技術に関する研究調査分科会

時計及び時計応用技術に関する研究調査を行うため、過年度より進行中の研究調査分科会3件で進める予定である。各研究調査分科会の成果は報告書または学会誌の記事によって報告する。

2. 1 「時計エネルギーに関する研究調査分科会」

（主査：佐々木 健 東京大学教授・本学会理事）

平成26年度は、従来より進めてきた

- ①エナジーハーベスティング技術
- ②電気二重層キャパシタ
- ③Li-ion 二次電池

に関する調査結果をまとめ、学会誌へ投稿する。

2. 2 「時計ものづくり研究調査分科会」

（主査：木村 南 東京工業高等専門学校教授・本学会理事）

平成26年度は、平成23年度末までの活動に加え、マイクロメカトロニクス誌に掲載された時計ものづくり技術に関する調査をまとめ、マイクロメカトロニクス誌に投稿し、本研究調査分科会の活動を終了する。

2. 3 「電波時計技術の歴史と動向に関する研究調査分科会」

（主査：岩倉 良樹 シチズンマイクロ株式会社・本学会理事）

平成26年度は、各社の調査内容を全体として纏めた技術的特徴／開発内容を再度見直し、分科会参加メーカー各社による調査内容の報告会を実施していく。その後に本学会誌へ掲載報告していく予定である。進めるにあたり、長波標準電波技術に関係する大学および研究開発機関にもご協力をお願いする予定である。

3. 学会誌、学術図書等の刊行

(1) 学会誌「マイクロメカトロニクス」を下記のとおり年2回発行する。

Vol. 58, No. 210 : 平成26年 6月, 280部

Vol. 58, No. 211 : 平成26年12月, 280部

(2) 学術講演会講演論文集を年1回発行する。

マイクロメカトロニクス学術講演会講演論文集 : 平成26年9月, 150部

4. 研究の奨励及び研究業績の表彰

青木賞表彰委員会を設け、平成24年度および平成25年度の時計学会誌「マイクロメカトロニクス」に掲載された研究論文の中から、当学会初代会長青木保博士を記念した第48回青木賞受賞の対象として研究論文を1編選考する。

マイクロメカトロニクス学術講演会の際、第48回青木賞贈呈式を行う。

5. 内外関係機関等との交流及び協力

(1) 国内機関との交流

国立国会図書館, 科学技術振興機構, 国立情報学研究所へ学会誌を寄贈する。

(2) 外国機関との交流

スイス : スイス時計学会 SSC: Société Suisse de Chronométrie, ドイツ : Technische Informationsbibliothek und Universitätsbibliothek Hannover (TIB/UB) 等との機関誌等の情報交換を行なう。

(3) 関係学会との協賛

研究会および学術講演会を、一般社団法人 エレクトロニクス実装学会, 一般社団法人 日本機械学会, 公益社団法人 精密工学会, 一般社団法人 電気学会, 公益社団法人 応用物理学会, 公益社団法人 計測自動制御学会, 一般社団法人 電子情報通信学会, 公益社団法人 日本設計工学会, 一般社団法人 ロボット学会等 関係学会などと協賛して開催する。

II. 会議に関する事項

1. 理事会を6回以上開催する。
2. 定時総会を2月に開催する。
3. 各研究調査分科会を4回程度開催する。
4. 企画委員会を3回程度開催する。
5. 青木賞表彰委員会を2回程度開催する。
6. 編集校閲委員会を4回程度開催する。